

8. 最近経験した Radiation hepatitis の症例

○中田新二郎 渡辺克司 三原桂吉
(九州大学 放射線科)

肝臓に近接した臓器の悪性腫瘍の放射線治療においては、止むをえず肝臓が照射されることがある。このような場合照射部位に一致して、肝シンチグラム上に欠損像

が現われることが本邦および諸外国において報告されている。

最近、われわれは上記のような所見を呈した症例、数例を経験したので、その症例を供覧し、文献の考察を加える。

*

シンポジウム：各種病院における核医学のあり方

1. 鹿大病院中央 RI 室の運営に関して

○有川憲蔵 篠原慎治
(鹿児島大学 放射線科)

核医学は臨床放射線医学のうち放射線診断学、治療学と並んで三本の柱となっており、最近における臨床核医学の進歩・普及には目ざましいものがあり、従来の X 線診断および血管造影検査に加えて、RI 診断を加えれば、ほとんど総ての臓器の疾患の診断は可能であるといっても過言ではないといえるほどである。

しかしながら RI 診療は防護面の必要から、他の放射線診療の場とは別な施設が必要であることはいうまでもないが、放射線治療として共通の知識技能を必要とするから、これを放射線医学の範疇から切り離すことはできない。RI 診療施設はできたとしても、最も重要なことは、これを放射線科(中央放射線部を含めての)といかなる関連において運営してゆくかであるが、この運営面については、それぞれの病院における人的・物的事情と内部機構などの諸因子によって、必ずしも放射線科の将来とその発展のために好ましい形態がとられているとはいえない状況を散見する現状である。われわれは鹿大病院中央 RI 室における RI 診療の推移と運営の現状につき報告すると共に、われわれの採っている運営法による長所・短所に関して解析を加え、放射線科それ自体としての RI 診療の増加に加えて、各科からの RI 診療の依頼要望について中央的存在としてこれに応じてゆかねばならぬという二面性を両立させるための人的・物的なトラブルおよび各科との関連における問題点(どこ迄各科に許容するか、各科の RI 診療に従事する医師の level の問題、routine の RI 診療の範囲と各科におけるリサーチ的な RI 診療に対するサービスの限界点など)についてふれ、RI 診療はあく迄も放射線科(医)がその主体性および主導権をもって実施されねばならぬことを――

これには現時点では種々の困難性があるが――強調し、この実現のためには充足の当初における system の重要性である。

*

2. 熊本大学病院放射線科の核医学診療の現況について

片山健志 ○金子輝夫 松本政典
(熊本大学 放射線科)

熊本大学病院放射線科にみける RI 診療の過去数年間の推移と現況について述べ、併せて核医学診療関係患者数増加に対する将来の施設、機器、人員に関する希望を述べる。

- 1) 過去数年間の RI 診療の種目と件数の年度別の推移、および月別の内訳。
- 2) 現在の施設および管理の状態。
- 3) 現在稼働している放射線測定器の種類、台数および従事者数。
- 4) 使用核種と使用量および収入点数の概要。
- 5) 将来購入希望機器と設備、それによる臨床検査件数の増加と処理件数の見込収入の予想。

*

3. 大学病院における核医学のあり方について

中川昌壮
(熊本大学 内科第三講座)

核医学の分野における近年の進歩と普及はめざましく、臨床各科においてもその診断、治療面への応用は漸次拡大しつつあり、各科との関連も非常に密接となってきた。しかし、その過程もわが国では長近十カ年余りの比較的短期間の開発、普及であったがために、現時点においてはその取入れ方や運営の面で立ち遅れの感が深く、